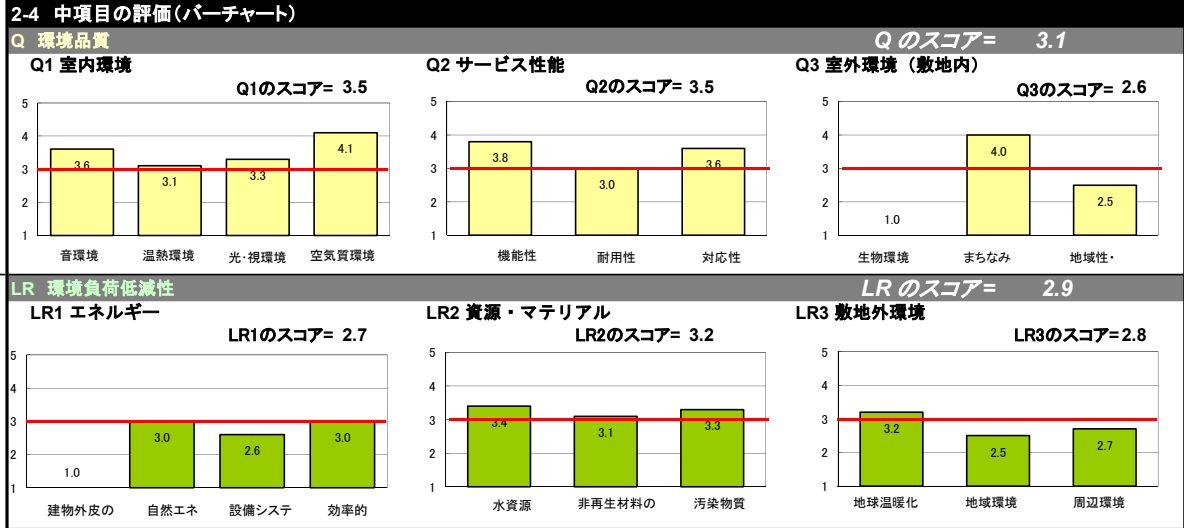
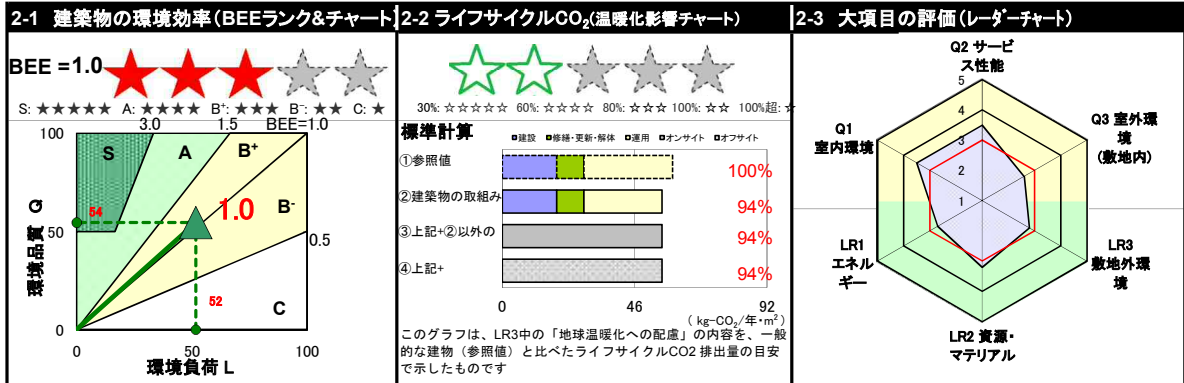


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICH

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	アイシン・エィダブリュ株式会社(仮)	階数	地上4F
建設地	安城市藤井町高根10番-1他60筆	構造	S造
用途地域	工業地域、工業専用地域	平均居住人員	60人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2018年4月6日
敷地面積	11,308 m ²	作成者	大平 英志
建築面積	3,809 m ²	確認日	2018年4月12日
延床面積	14,988 m ²	確認者	高橋 幸



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">8.2 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						建物全体・共用部		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体		
配慮項目	独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数	評価点		重み係数	評価点		重み係数	評価点		重み係数	全体		
				評価点	重み係数		評価点	重み係数		評価点	重み係数		評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質																		3.1
Q1 室内環境																		3.5
1 音環境																		3.6
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40													
1.2 遮音			T-2性能のサッシを採用	4.2	0.40													
1 開口部遮音性能				5.0	0.60													
2 界壁遮音性能				3.0	0.40													
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-													
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-													
1.3 吸音			床、壁、天井に吸音材を使用している	4.0	0.20													
2 温熱環境																		3.1
2.1 室温制御				3.8	0.50													
1 室温				3.0	0.38													
2 外皮性能			サンドイッチパネルt=25を使用している	5.0	0.25													
3 ソーン別制御性			ペリメータとインテリア別に空調システムをもち、細かな空調ゾーニングと	4.0	0.38													
2.2 湿度制御				3.0	0.20													
2.3 空調方式				2.0	0.30													
3 光・視環境																		3.3
3.1 昼光利用				4.2	0.30													
1 昼光率			昼光率:3.0	5.0	0.60													
2 方位別開口				-	-													
3 昼光利用設備				3.0	0.40													
3.2 グレア対策				3.0	0.30													
1 昼光制御				3.0	1.00													
3.3 照度				3.0	0.15													
3.4 照明制御				3.0	0.25													
4 空気質環境																		4.1
4.1 発生源対策				5.0	0.50													
1 化学汚染物質			床、壁、天井、天井裏の100%にF☆☆☆☆を使用している	5.0	1.00													
4.2 換気				3.3	0.30													
1 換気量			1人あたりの換気風量30m3/hを採用している	4.0	0.33													
2 自然換気性能				3.0	0.33													
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33													
4.3 運用管理				3.0	0.20													
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50													
2 喫煙の制御				3.0	0.50													
Q2 サービス性能																		3.5
1 機能性																		3.8
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40													
1 広さ・収納性				3.0	0.40													
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33													
3 バリアフリー計画		独自		3.0	0.33													
1.2 心理性・快適性				4.6	0.30													
1 広さ感・景観 (天井高)			事務所の天井高さ3000	5.0	0.33													
2 リフレッシュスペース			事務所スペースと同等のリフレッシュスペースを確保	5.0	0.33													
3 内装計画			インテリアパースを作成し、照明計画と内装計画を一体で計画	4.0	0.33													
1.3 維持管理				4.0	0.30													
1 維持管理に配慮した設計			維持管理に配慮した設計を実施	5.0	0.50													
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50													
2 耐用性・信頼性																		3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.48													
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80													
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20													
2.2 部品・部材の耐用年数		②		3.1	0.33													
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23													
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23													
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09													
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08													
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				4.0	0.15													
6 主要設備機器の更新必要間隔			2種類以上にC以上を使用	3.0	0.23													
2.4 信頼性				3.0	0.19													
1 空調・換気設備				3.0	0.20													
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20													
3 電気設備		②		3.0	0.20													
4 機械・配管支持方法			耐震クラスAを採用	4.0	0.20													
5 通信・情報設備				3.0	0.20													

3 対応性・更新性				3.6	0.29			-	3.6	
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31			-		
1 階高のゆとり			階高5000	5.0	0.60			-		
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率:0.086	5.0	0.40			-		
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-		
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			-		
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17			-		
2 給排水管の更新性					3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性					3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性					3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性					3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.39			-	2.6	
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	周辺建物とバランスよく調和させた外観を採用	4.0	0.40			-	4.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			-		
LR 建築物の環境負荷低減性								-	2.9	
LR1 エネルギー				-	0.40			-	2.7	
1 建物外皮の熱負荷抑制				1.0	0.04			-	1.0	
2 自然エネルギー利用				3.0	0.27			-	3.0	
3 設備システムの高効率化				2.6	0.41			-	2.6	
4 効率的運用				3.0	0.28			-	3.0	
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-		
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-		
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-		
集合住宅の評価				-	-			-		
4.1 モニタリング				-	-			-		
4.2 運用管理体制				-	-			-		
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			-	3.2	
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4	
1.1 節水			節水コマ及び節水型便器を採用	4.0	0.40			-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-		
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-		
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-		
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.63			-	3.1	
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24			-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自		3.0	0.20			-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			再生クラッシュラン	3.0	0.20			-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			躯体と仕上材が容易に分別可能	4.0	0.24			-		
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.3	0.22			-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				床接着材の指定化学物質の含有は無	4.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			-		
1 消火剤				2.0	0.33			-		
2 発泡剤(断熱材等)			ODP:0 GWP:3	4.0	0.33			-		
3 冷媒				3.0	0.33			-		
LR3 敷地外環境				-	0.30			-	2.8	
1 地球温暖化への配慮		①		3.2	0.33			-	3.2	
2 地域環境への配慮				2.5	0.33			-	2.5	
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-		
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50			-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25			-		
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-		
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-		
3 交通負荷抑制		独自	適切な量の駐車スペースを確保	4.0	0.25			-		
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			-		
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33			-	2.7	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-		
1 騒音		独自		3.0	0.33			-		
2 振動		独自		3.0	0.33			-		
3 悪臭				3.0	0.33			-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				1.6	0.40			-		
1 風害の抑制				1.0	0.70			-		
2 砂塵の抑制				-	-			-		
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30			-		
3.3 光害の抑制				4.4	0.20			-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			ガイドラインチェックリストの項目の過半を満たしている	5.0	0.70			-		
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-		

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

アイシン・エイ・ダブリュ株式会社(仮称)新評価棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	外構緑化:8.18%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 アイシン・エイ・ダブリュ株式

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 屋内環境では、遮音性能に配慮した室内環境を確保した。 まちなみへの調和に配慮し、周辺建物と調和のとれた外観計画とした。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 化学汚染物質の発生しない仕上材の採用により、室内環境の向上を図る。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 階高3.9m以上確保し、壁長さ比=0.086として、空間の形状・自由度を考慮。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 外壁デザインを極力シンプルなもの(断熱サンドイッチパネル)とし、周辺の風景とバランスよく調和した計画としている。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 BEI=0.88として、熱損失・熱取得の低減に努める。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 有害物質を含まない材料を積極的に採用する。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 光害に配慮し、敷地外への影響の低減を図る。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。 特になし